

基本施策3 全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成

施策目標

トップアスリートの育成を目指した強化体制の構築による、全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成

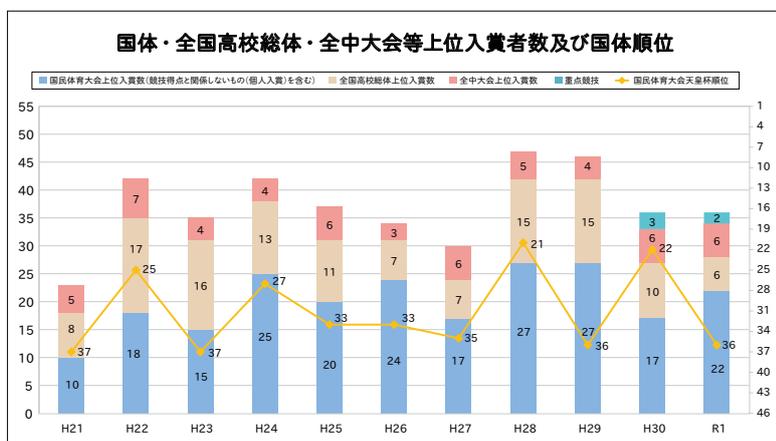
現状と課題

1 本県の競技力の現状

本県は、平成12年の2000年とやま国体以降、企業チームやクラブチームの相次ぐ休廃部や指導者の世代交代がスムーズに進まなかったこと、また、ジュニア期を支えてきた学校運動部活動における競技者数の減少や優秀な小中学生の県外流出などにより、徐々に国体順位が下降してきました。また、全国高校総体や全国中学校体育大会等における上位入賞者数も減少してきました。

このため、ジュニア層からの発掘や育成・強化に係る一貫指導体制の再編整備や少年種別の重点強化、競技者育成プログラムの作成に取り組むとともに、県スポーツアドバイザーからの指導助言を踏まえ、スポーツ医・科学的サポートの充実、国体での活躍が期待できる競技や県民の関心の高い競技（サッカー・野球・駅伝）を重点的に強化に取り組んできました。

これらの取組により、全国高校総体や全国中学校体育大会、国民体育大会等で少年選手が活躍する



資料：県スポーツ振興課調べ

するなど、成果が現れてきており、平成30年の国民体育大会天皇杯順位が22位となっています。

また、オリンピックにおいても、バンクーバーオリンピック（2010年）では2名の銀メダリスト、リオデジャネイロオリンピック（2016年）では個人種目かつ女子選手としては本県選手初となる2名の金メダリストが誕生し、県内スポーツ界を大いに賑わせてくれました。

2 強化拠点の整備

昭和33年の富山国体開催をきっかけに、ハンドボールやホッケーなどが、その競技会場となった市町村で、地域に根差したスポーツとして、子どもから大人まで、各年代層で継続して取り組まれています。このような競技は、全国大会等でも毎年好成績を取め、さらには、オリンピック等の日本代表選手を輩出するなど、大活躍しています。競技力の向上には、恒常的な活動場所と地域の優秀な指導者の確保が必要であり、今後も、整備された施設と指導ノウハウを生かし、地元住民の理解や協力を得ながら、競技スポーツ団体と市町村の連携を深める必要があります。

また、競技スポーツ団体、中学校部活動、スポーツ少年団、地域スポーツクラブ等が連携を深め、ジュニア層の底辺拡大や教員指導者の有効活用を図る必要があります。

さらに、県総合体育センターや西部体育センターの機能をフルに活用し、競技力向上の中核拠点として有効活用を図るため、スポーツ医・科学的サポートや栄養指導の充実、強化事業に利活用しやすい条件整備等を進めることが重要です。



国民体育大会

3 アスリートの発掘・育成・強化

県では、ジュニア層の素質ある児童の早期発掘や育成を目的に、平成17年度から小学5年生を対象とした「未来のアスリート発掘事業」を開催しています。この事業の修了生から、全国や世界の檜舞台で大活躍している選手が数多く輩出されています。

さらに、平成18年度からは、競技力の向上を目的に発掘されたアスリートやジュニア選手達を、拠点施設において県内有数のコーチが専門の競技に特化した指導を行う「元気とやまスポーツ道場開催事業」や、日頃指導する部活動指導者の資質向上を目的に、全国大会等で上位入賞の実績を



未来のアスリート発掘事業

もつ経験豊富な指導者を中学・高校に派遣する「スーパーコーチ派遣事業」を実施しています。

また、本県の年代別日本代表選手が、国際レベルの試合経験を積み重ねることにより、さらなる強化が図れるよう国際大会への参加負担金を一部支援しています。

今後も、これらの事業で発掘された児童生徒が、全国や世界の檜舞台で活躍できるトップアスリートへと育成・強化されるよう一貫指導体制

を推進するとともに、強化体制の充実を図ることが必要です。

競技力の向上を図るためには、個人の特性に応じた専門的な指導を行うことができる指導者が不可欠であり、優秀な人材の確保や養成に努める必要があります。また、近年選手、指導者による不正行為等が発生しており、選手に対する教育・研修・啓発活動の充実が必要となっています。

具体的方策

1 トップアスリートの育成を目指した強化施策の推進

(1) 一貫指導体制の推進

ジュニアからの育成・強化を図るため、関係者が一貫した指導理念に基づき、個人の特性や発育・発達段階に応じた適切な指導を組織的・計画的に推進します。

- 潜在能力を秘めた真に優秀な児童を幅広く発掘する「未来のアスリート発掘事業」の充実を図るとともに、発掘した児童の競技選択のサポートや、中学・高校での活動状況の追跡調査・分析を行うなど、中長期的な育成・強化に努めます。
- 中学校の運動部活動に、小学生で取り組んだ競技がない場合でも、その競技から離れることなく継続できるよう、合同部活動やクラブチーム、競技力向上を目指した地域スポーツクラブなどにおいて一貫指導を受けられる環境の整備に努めます。

(2) トップアスリートの育成

県民に勇気と感動、子どもたちに夢と希望を与えるトップアスリートの育成を目指した強化を推進します。

- 国や世界のスポーツ情勢に精通した有識者を県スポーツアドバイザーに委嘱し、トップアスリートの育成など、強化施策に対する継続的な指導助言等により競技力向上の取組を推進します。
- トップアスリートを育成・強化するために必要な強化費の確保に努め、地域に根差し、一貫した指導体制により全国大会で好成績を収め、今後も国体等での活躍が期待できる競技などへの集中的・継続的な重点強化を推進するとともに、本県成年勢の主力となる地域密着型のクラブチームや企業チーム、大学生等の活動支援に努めます。
- 障害者スポーツの全国大会・国際大会の出場者や強化指定を受けた選手の活動を支援するなど、障害者スポーツにおけるトップアスリートの育成に努めます。
- 県民の注目度や関心が高く、県代表チームの活躍を待ち望む「サッカー」「野球」「駅伝」については、重点強化種目としてこれまでの強化策を見直し、全国的に実績のある指導者を招へいし、指導・助言を受けたり、遠征合宿事業に補助したりするなど、選手や指導者のレベルアップを図り競技力の向上に努めます。
- 選手、指導者による不正防止に向けて、体罰やハラスメントの防止に関する指導、ドーピング防止に関する指導・啓発を継続的に行い、コンプライアンスの推進に努めます。（再掲）

2 競技力の向上を目指した強化拠点の整備推進

(1) 県総合体育センターや西部体育センターの強化拠点の整備

トップアスリートの育成や本県競技力の向上を円滑に推進するため、選手の発掘や育成・強化を集中的・継続的に行うことができる中核拠点の整備を推進します。

- 県総合体育センターに加え、西部体育センターを本県の競技力向上の中核拠点として有効活用するため、（公財）県体育協会が主体となり、その体制づくりを推進します。
- 県総合体育センターがもつスポーツ医・科学サポート機能をはじめ、宿泊施設やアクセスの利便性、国内外のトップチームの合宿実績等、その機能をフル活用した強化練習や合宿などにより、総合的な競技力向上に努めます。

（2）競技別強化拠点の確立

競技力の向上には練習環境の整備や確保が不可欠なことから、競技別の強化拠点の整備に努めます。

- 再編統合により使われなくなった学校施設等を利活用し、重点強化種目や国体での活躍が期待できる競技などの「強化拠点」を整備するとともに、「元気とやまスポーツ道場開催事業」での積極的活用など、学校枠を外した育成・強化体制の構築を図り、競技別強化拠点での重点強化を推進します。
- 優秀選手の県外流出や分散を防止するため、全国大会等での活躍が期待でき、強化の拠点となりえる高校への支援について検討します。

3 トップアスリートを県民総ぐるみで支援する体制の推進

（1）トップアスリートを応援する気運の醸成と支援活動の推進

本県では、バンクーバーオリンピックでの田畑・穂積両選手の銀メダル獲得を契機に（公財）県体育協会や経済団体等が中心となり「富山県民スポーツ応援団」が設立（H22）されて以降、県民総ぐるみでトップアスリートを支援する気運が高まり、それに後押しをされるように多くのトップアスリートが輩出され、リオデジャネイロオリンピックでは、田知本・登坂両選手が見事金メダルを獲得しました。今後も、オリンピック等で活躍するトップアスリートを輩出するため、一層の気運の醸成に努めるとともに、その活動を推進します。

- 本県出身者を含め世界的・全国的なプロ選手やオリンピックメダリストとの交流等、一流のプレイに接する機会を提供するなど、トップアスリートとの交流の促進に努め、本県の代表チームやトップアスリートを県民総ぐるみで応援する気運の醸成に努めます。
- 「県民スポーツ応援団」活動の一層の周知に努めるとともに、県民が気軽に応援や支援活動に参画できるよう、その取組を推進します。
- 県民スポーツ応援団募金を原資とした「元気とやまスポーツ応援基金」を活用し、オリンピックなど、世界の檜舞台での活躍が期待される本県の選手や指導者が意欲的に競技に専念できるよう、その活動を支援します。
- ふるさと納税の活用や県総合体育センターをはじめとした県有スポーツ施設のネーミングライツ（施設命名権）の導入など、県民・企業・施設等との連携によるトップアスリート支援のための新たな財源確保策について検討します。

(2) 広報活動の促進

本県を代表する選手やチームが国際大会や全国大会で活躍することは多くの県民が期待しており、県全体に活力をもたらすとともに、選手やチームにとって県民の声援は大きな力になることから、HPやSNS等を活用するなど積極的な広報活動に努めます。

- 本県スポーツチームや選手に対する県民の興味・関心を高めるため、新聞、テレビ等のマスメディアに対して、本県出身者を含め、県内アスリートの活躍や日頃の活動などの情報を積極的に提供するとともに、「とやまスポーツ情報ネットワーク」、富山県庁HPやSNS等の活用を図り、広報活動の促進に努めます。

施策目標達成のために参考とする指標

指標名及び指標の説明	現 況	R11
全国大会における上位入賞数 国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国中学校体育大会等における3位以内の入賞数	46 (H29)	48以上
オリンピック出場者数 オリンピック競技大会（夏季・冬季）に出場する本県選手数	9人 (H20北京 7人) (H22バンクーバー2人) 9人 (H24ロンドン 7人) (H26ソチ 2人) 9人 (H28リオ 6人) (H30平昌 3人)	10人以上